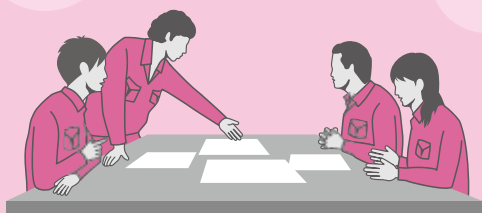


# 小集団活動で

## 職場活性化



住友重機械マリンエンジニアリング(株)  
製造本部 主管(安全担当)

児玉 猛

第2回

## KYミーティング

### 身近な小集団活動は？

今、いろいろな職場で、一番身近に行われている小集団活動と言えば、「危険予知(KY)ミーティング」(写真)でしょう。「KYミーティング」と一言で言っても、いくつかのステップがあると思います。危険予知に初めて取り組んでいる職場では、それがKYトレーニングの域を出ない練習のステップであることも多くあります。

このステップを乗り越えて、やっとKYミーティングの段階に入ってくると、今度はこれを定着させようと、いろいろな努力を繰り返すのではないのでしょうか？

### 定着させるのが難しい

われわれの職場でも、随分前から、「KY基礎4ラウンド法」をしつかり勉強し、その考え方や方法をきちんと理解した上で、それに則って職場にKYミーティングを定着させようと、さまざまな努力を繰り返してきました。

しかし、やっとKYT基礎4ラウンド法のKYミーティングが定着したかな、と感じても、いつの間にか「手抜きKYミーティング」に戻ってしまうということの繰り返しでした。それに気付いて、また、基礎4ラウンド法を取り組み直すという繰り返しを経て、「特に意識しな



写真 KYミーティング中の様子

くても自然に、KYミーティングが習慣化してきた」というところに足を踏み入れてきたかなと思われます。

次の文も参考にしてみてください。

安全文化とは、

「組織の安全の問題が、何ものにも勝る優先度を持ち、その重要度を組織および個人がしっかりと認識し、それを起点とした思考、行動を組織と個人が恒常的に、しかも自然に取ることができる行動様式の体系」

(チエルノブイリ事故の報告書)  
言い換えれば、

## 小集団活動で

### 職場活性化



こだま たけし

1971年 住友重機械工業(株)入社。新造船関係などの業務を経て、1997年より横須賀製造所、千葉製造所などで安全衛生業務に従事。2005年より住友重機械工業(株)本社 安全衛生担当部長を歴任後、2014年7月より現職。

### 危険予知活動の到達目標

各々の事業場で重点項目としてやるのも危険予知ですが、安全文化の解釈と同様に、特に意識しなくても、一人ひとりが自然に危険予知の行動が習慣化している、そんな職場にすることが、まず、危

「とくに意識しなくとも自然に、作業の価値判断や安全な行動が習慣化していること」

(『信じられないミス』はなぜ起こる)

黒田 勲著 中災防新書より)

険予知の第一歩です。

しかし、(前回でも述べたとおり)メンバー皆からどんな意見が出て、リーダーが引つ張っていけるどんな立派なKYミーティングをやっている、それは危険予知活動のほんの入り口にしかありません。

危険予知活動の到達目標は「一人になっても、その作業の中で危険を予知する行動が、特に意識をしなくても習慣化していること」なのです。その行動を確認する指標(ものさし)が、「確実な指差し呼称」の実施です。

毎日のKYミーティングで「〇〇の時

は〇〇して◇◇しよう ヨシ!」と唱和した「私たちはこうする」という「目標設定」を、何十、何百と頭の中に蓄積し、その都度その引き出しを開けて、一人KYを実行する際に唱和していく。さらに、それをより確実にするため指差し呼称を実施する。これが危険予知活動なのです。われわれの職場の危険予知小集団活動も、目指す最終的な目標はまだまだ遠い先にあります。真の「二人KY」を指して、現場では「一人KYを指差し呼称を添えて確認する活動」を展開していきます。